

本事例の基礎データ

カテゴリ	文字入力（タイピング）に関する指導方法		
学校種	小学校	事例提供者	町田市立町田第五小学校
学年	2年生	教科等	国語科（各教科）
単元名	かたかなで書くことば（ローマ字入力）		
主な ICT 機器	・LTE タブレット PC（キーボード付き Chrome OS 機／一人1台）		
授業の概要	小学生向けキーボード検定サイトを使用して、ローマ字入力に慣れ、授業で活用することで、低学年からタイピングで文字入力ができるようにする。		
「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け	基本的操作	STEP 2	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードで文字入力ができる（10文字程度／1分間） ・入力モード切替、数値入力、ローマ字入力

本事例における教育の情報化について

【ポイント1】	<ul style="list-style-type: none"> ●キーボード検定サイト「キーボー島アドベンチャー」の活用 ・児童の意欲を高め、ローマ字入力に慣れるようにする。空き時間を使って、積極的に検定サイト活用を促す。
【ポイント2】	<ul style="list-style-type: none"> ●日常の授業で文字入力の活用 ・普段の授業でもタブレット端末を活用し、積極的に文字入力を行う場面を設定するようにする。その際、児童同士の学び合いを促すよう留意する。
【ポイント3】	<ul style="list-style-type: none"> ●ICT 技能チェックリストの活用 ・校内で全学年 ICT 技能チェックを定期的に行う。タイピングの技能では、1分間に入力できる文字数を目標として設定し、自身の技能を知る。支援が必要な場合はその都度、技能の習得を図る。

本単元（題材）における指導 ①

時間	●主な学習活動 ・ 児童の活動	○支援・留意点 ☆評価
授業時間（1時間）	<p>●片仮名で書く言葉を集めて、キーボードから入力する。</p> <p>【ポイント1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーボード検定サイトにアクセスし、ローマ字表を用いながら入力の練習をする。 	<p>○ID・パスワード管理について指導する。十分でない児童には個別指導をする。ローマ字の入力方法について指導する。</p> <p>☆ID・パスワード管理ができています。</p>

本単元（題材）における指導 ②

教科指導の合間に行う文字入力	<p>●文字入力に慣れる</p> <p>【ポイント1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でサイトにアクセスし、文字入力をゲーム感覚で楽しみながら練習する。 <p>【ポイント3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT技能チェックの結果を知り、次の学びへの意欲を向上させる。 	<p>○児童が活用しやすいようにクラスルームにリンクを貼っておく。</p> <p>○お気に入りに登録する方法を伝える。</p> <p>○ICT技能チェックで頑張っている児童をクラスで紹介する。</p>
----------------	--	--

本単元（題材）における指導 ③

日常的な教科指導中に行う文字入力	<p>●日常的な授業での文字入力の活用</p> <p>【ポイント2】指導の例</p> <p>○Jamboard における付箋への記入</p> <p>【国語】「単語入力」「言葉集め」「なかまわけ」「かたかなで書くことば」</p> <p>○スライドの作成</p> <p>【国語】「ふきのとうクイズ」「メモをとるとき」</p> <p>【生活】「学校をあんないしよう」「やさいをそだてよう」「町たんけんをしよう」「自分について考えよう」「遠足のけいかくを立てよう」</p> <p>○スプレッドシートへの入力</p> <p>【道徳・国語】意見を書き、コメントし合う。</p> <p>○フォームへの入力</p> <p>【国語・道徳】「好きな本アンケート」「言われて嬉しい言葉・嫌な言葉」</p>	<p>○単語入力から始めて、短文、文章、コメントのやりとりなど、少しずつ長い文が打てるようにしていく。</p> <p>(☆評価は、各教科で行う。)</p>
------------------	---	---

本時の流れ

段階	● 主な学習活動・児童の活動	○ 支援・留意点 ☆ 評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 片仮名で書く言葉を振り返り、めあてを確認する。 ・ 片仮名で書く言葉の種類について理解し、片仮名を使う言葉を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 片仮名で書く言葉の種類を黒板に提示する際、Jamboard の付箋の色で分類できるように色分けをしておく。
<p>かたかなで書くことばをあつめ、文を書こう</p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 片仮名で書く言葉を見つけ、Jamboard の付箋にローマ字入力する。 【ポイント2】 ・ 班ごとにJamboardを開き、クラスの全員と共有できるようにする。 ・ 片仮名で書く言葉を種類ごとに色分けし、Jamboard の付箋に入力する。 ・ 付箋を色ごとにページを変える。 ● 片仮名で書く言葉の種類ごとに分類する。 ・ 同じ言葉の付箋は近くにするなど、移動させて分かりやすく分類する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ PC 操作で困っている友達と教え合うようにする。 ○ 開いた Jamboard には、ファイル名を付け、共有ドライブに入れることで、全員と共有できるようにする。 ○ 片仮名で書く言葉の種類ごとに付箋の色を変え、ページを変えることで、種類が明確に理解できるようにする。 ○ 見やすく分類できるように、同じ言葉は近くに移動させたり重ねたりするようにする。 <p>☆ 片仮名で書く言葉を付箋に入力することができる。【知識・技能】</p> <p>☆ 片仮名で書く言葉の種類ごとに分類することができる。【知識・技能】</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 片仮名の言葉を使って文を書く。 ・ 自分のグループだけでなく、他グループの言葉も参考に文を書くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 同じ班や別の班の友達の考えを取り入れ、片仮名の言葉を使って文を書くことができる。【知識・技能】

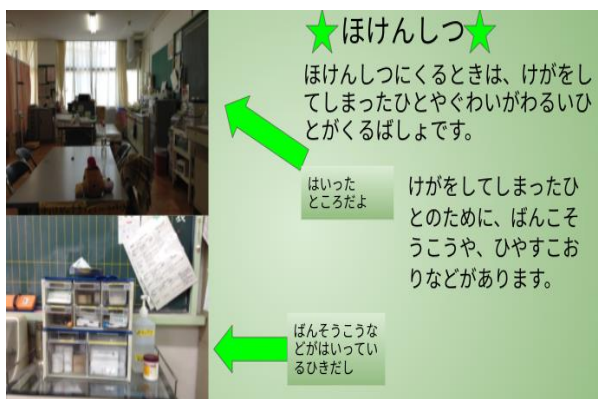
授業の実際

【ポイント1】 ●キーボード検定サイトの活用



- ・ゲーム感覚でローマ字入力の練習ができた。
- ・一文字の入力から始まり、単語、文へと少しずつレベルを上げることができた。

【ポイント2】 ●日常の授業で文字入力の活用



- ・サイトでの学習で学んだ技能は、日常の授業で生かすことができた。
- ・実際に学習の中で使うことが一番の習熟の要因であることが改めて分かった。単語集めや短文から始めて、感想やコメントのやり取りなど、自分の言葉を入力できるようになった。

【ポイント3】 ●ICT 技能チェックリストの活用



- ・校内で「全学年 ICT 技能チェック」を定期的に行い、その答え合わせをすることで、新しい技能を習得することができた。
- ・タイピング技能では、目標を設定し、自身の技能を知ることで意欲が向上した。【参考】一番多く入力できた文字数（73文字／1分間）

今後に向けて

- 低学年からローマ字入力を行うことで、授業内での意見交流や情報共有がスムーズにできるようになった。低学年からのタイピングの指導を継続する。
- 2年生からタブレット端末に親しむ中で、情報モラルについても育成していくことが必要